

## 第38回 容量市場の在り方等に関する検討会 議事録

### 1. 開催状況

日時：2022年5月30日（月） 10:00～10:40

場所：Web会議

出席者：

秋池 玲子 座長（ポストコンサルティンググループ マネージング・ディレクター & シニア・パートナー）  
秋元 圭吾 副座長（公益財団法人地球環境産業技術研究機構 システム研究グループリーダー・主席研究員）  
小宮山 涼一 委員（東京大学大学院工学系研究科 准教授）  
松平 定之 委員（西村あさひ法律事務所 パートナー）  
松村 敏弘 委員（東京大学 社会科学研究所 教授）  
圓尾 雅則 委員（S M B C日興証券株式会社 マネージング・ディレクター）  
梅本 昌弘 オブザーバー（伊藤忠エネクス株式会社 電力・ユーティリティ部門 電力需給部長）  
岡本 浩 オブザーバー（東京電力パワーグリッド株式会社 取締役副社長）  
紀ノ岡 幸次 オブザーバー（関西電力株式会社 エネルギー・環境企画室 企画担当部長）  
小鶴 慎吾 オブザーバー（株式会社エネット 経営企画部長）  
佐々木 邦昭 オブザーバー（イーレックス株式会社 経営企画部 次長）  
松野 泰 オブザーバー（送配電網協議会 電力技術部長）  
森 正樹 オブザーバー（電源開発株式会社 経営企画部 ESG・経営調査室長）  
鳴瀧 匡彦 オブザーバー代理（東京ガス株式会社 電力事業部 課長）  
佐々木 陽平 オブザーバー代理（電力・ガス取引監視等委員会事務局 取引監視課係長）

欠席者：

安念 潤司 委員（中央大学法科大学院 教授）  
林 泰弘 委員（早稲田大学大学院先進理工学研究科 教授）  
轟田 将範 オブザーバー（電力・ガス取引監視等委員会事務局 総務課長）  
下村 貴裕 オブザーバー（資源エネルギー庁 電力・ガス事業部 政策課 電力産業・市場室長）

議題：

- （1）2022年度メインオークション募集要綱（案）の概要について
- （2）2022年度メインオークションにおける需要曲線の原案について

資料：

- （資料1）議事次第
- （資料2）委員名簿
- （資料3）2022年度メインオークション募集要綱（案）の概要について
- （資料4）2022年度メインオークションにおける需要曲線の原案について

## 2. 議事

### (1) 2022年度メインオークション募集要綱(案)の概要について

○ 事務局より、資料3に沿って、2022年度メインオークション募集要綱(案)の概要について説明が行われた。

[主な議論]

(松平委員)

説明いただき感謝する。内容に特段異存はなく賛成する。

ノンファーム型接続電源の取り扱いについては系統事由で発送電できない場面が出てくる可能性があるかと思う。その場合、リクワイアメント達成との関係でいうと不可抗力の取り扱いになるかと思う。その辺りについては今後パブコメのQA等で確認していく事が望ましいと考える。

今後ノンファーム型接続電源が増えてきた場合、容量市場においてどのように評価していくのが適正なのかを国の検討会等で議論を深めていただくよう期待したい。具体的には、供給力の確保という容量市場目的達成の観点からノンファーム型接続電源をどのように評価するのが適正なのか、一方で主としてノンファーム型接続電源になるのは新しい電源かと思うが新しい電源を育てていくという観点からこのノンファーム型接続電源を容量市場においてどのように評価するのが適正なのか、追加的な視点としては容量拠出金の全体的な負担総額を過度に増やさないとこの観点も重要だと思う。そういった個別論点において時に相反する視点を踏まえながら、どういう風に評価するのが望ましいかの議論が今後深まっていく事を期待したい。

(小宮山委員)

説明感謝する。事務局の提案に賛同する。

前回からのメインオークション約定方法の変更点についてだが、今後メインオークション約定結果を公表する際、変更点についても丁寧に公表していただきたい。特に今回、発動指令電源の調整係数については事後的に算定する事になったかと思うが、なぜ事後的な調整が必要なのか、供給信頼度の観点等も含め分かり易く社会に発信していただければと思う。

(岡本オブザーバー)

2022年度のメインオークションに向けて事務局の方で準備を進めていただき感謝する。説明内容に異存はない。

松平委員の発言にもあったように、ノンファーム型接続電源の扱いについては説明の通りでいいと思うが、実際のところ、弊社エリアで見ても2027年度になると混雑が出てくる可能性があると思っている。そこに向けて評価の在り方も含め整理をしておかねばならないと考えている。特にノンファーム型接続電源が入っていくと系統制約のある中で供給信頼度がどうなるのか、定量的に評価、分析していく事が重要と考える。簡単な事ではないと理解はしているが、是非検討を急いで進めていただきたいと思う。我々も知恵を絞っていきたくて思っているのでも宜しく願います。

(鳴瀧オブザーバー)

説明感謝する。全体的に異存はないが、スケジュールに関して意見を述べたい。

34、35ページに示すメインオークションに向けたスケジュールであるが、今年度については提示通りに準備を進めていきたいと思っている。然しながら第1回から今年度に至るまでスケジュールが月単位で遅れている状況である。事業者が実務を進める上でも安定したスケジュールが非常に重要と思うため、国とも連携の上、検討いただければと思う。

(小鶴オブザーバー)

全体的に異存はないが、確認とコメントをしたい。

発動指令電源の調整係数について、先日の制度検討作業部会において事務局から各エリアで5%導入された場合の数値を参考として事前公表するのはいかがでしょうかという提案があったが、その参考数値の公表はどこで提示されるのか確認したい。

ノンファーム型接続電源については混雑見通しも踏まえてという事であったが、検討自体は制度検討作業部会で行うため、なかなか難しいとは思いますが、参加事業者拡充のひとつの方法として今後も引き続き検討していただければと思う。

(秋元委員)

説明感謝する。小鶴オブザーバーからの指摘と同じであるが、制度検討作業部会で参考値として事前に数字を示すという話であったので、今回示していないのであれば、どこで示されるのかという事に関して確認したい。全体としては審議会、委員会等で議論してきた事を募集要綱に落とし込んでいるので全く異論はない。この形で進めていただければと思う。

(事務局)

発動指令電源の調整係数(参考値)の事前公表については、他の電源の調整係数と併せたタイミングでの公表を計画している。メインオークションのスケジュールについても、いただいた意見を参考にしながら、来年度以降のスケジュールをどう進めていくか国と協議をしながら決めていきたいと考えている。ノンファーム型接続電源をどう扱い進めていくのかについては、今後に向けた多々ある検討課題を国との審議等踏まえながら本検討会でも審議させていただき、容量市場の方に取り込んでいく事を進めていきたいと考えている。また、約定方法の説明については、約定結果を公表の際、資料の中に取り込む等を行い、調整係数の公表についても資料等に反映を行って説明していきたいと考えている。

(秋池座長)

他に発言ないようであれば議題1についてはここまでとしたい。

2022年度メインオークション募集要綱案について意見いただき感謝する。この要綱案については本検討会での検討内容も踏まえながら準備を進めてきた。委員、オブザーバーの皆様には様々な観点から検討いただき感謝する。いただいた意見は以降に生かしていきたいと思う。

この後、この意見募集を実施し、事業者からも広く意見を確認していく予定である。引き続き、事務局には募集要綱と約款の公表に向けた準備について進めていただくようお願いする。

## (2) 2022年度メインオークションにおける需要曲線の原案について

○ 事務局より、資料4に沿って、2022年度メインオークションにおける需要曲線の原案について説明が行われた。

[主な議論]

(岡本オブザーバー)

説明いただいた事務局提案に異論はないが、1点コメントしたい。

現在の基本となる考え方通りに進めていただくのは良いとしても、発電所の停止(計画停止、計画外停止)というのが信頼度に影響している事ははっきりしており、昨今の停止は肌感覚としても多いように思う。例えば地震で発電所にトラブルがあると修理するのに一定期間止まる等を含めてのことである。

EUE 上という話ではないかも知れないが、弊社も含めた各社が再生可能エネルギーの出力制御を行うという事で揚水発電所を端境期に運転しなければならず、停止が必要な際は他の期間で停止を行わなければならないという事が実際の制約となっている。色々事情が変わってきているところもあるため、是非、停止の実態を把握していただきたい。需要曲線的前提となる目標調達量を定める上で、稼働電源がどれだけあるかによって信頼度が評価されるので、停止が現設計の前提からずれていないのかをできるだけ早く確認していただきたいと思う。その結果として何か見直すべき事があれば、できるだけ速やかに反映していただきたいと思っている。

昨今の需給リスクが継続しお客さまに心配をかけているが、元々前提としている稀頻度や厳気象のリスクにおける考え方についても実績を踏まえた評価をお願いしたいと思っている。実績のチャンピオンデータを使い、量を増やした方がいいというわけではなく、実態として起きている事を踏まえた見直しの必要があれば対応していただきたいという事である。現状の枠組みの中で取り入れるべき実態が出てくるのではないかと感じているので、是非お願いしたい。

(秋池座長)

2022 年度メインオークションの需要曲線の原案について意見いただき感謝する。

需要曲線の原案については、この後、国の審議会へ提出し、そこでの意見も踏まえながら、広域機関においてメインオークション需要曲線を決定、公表する事としている。事務局には需要曲線の公表に向けた準備について引き続き進めていただくようお願いする。

(事務局)

岡本オブザーバーからの意見、コメントに感謝する。

議題 1 の資料にもあったように、昨今の需給ひっ迫を踏まえた対策については国を含め様々な観点から検討していく事で承知している。計画停止、計画外停止のみならず、稀頻度、厳気象について現在の数値としてどうなのかについても今後の検討課題として認識している。容量市場においても当然ながら需要の変動、計画外停止等は日々の実績更新で反映されてくるものもあるが、それ以外に明らかになった点については今後も見直しを図って容量市場の中に取り込んでいきたいと考えている。

以上